

戦評用紙

令和元年度 関東高等学校バスケットボール埼玉県予選会

令和元年/5/18

会場 越谷市立総合体育館 Eコート 第1試合

性別 女 準決勝

対戦カード	埼玉栄高校	29	—	11	市立川越高校
TOTAL	82	18	—	15	58
		26	—	15	
		9	—	17	

準決勝Eコートは新人戦で優勝した埼玉栄高校と4位だった市立川越高校の対戦となった。

埼玉栄高校のスターティングメンバーは0・2・3・7・12、市立川越高校のスターティングメンバーは4・5・10・17・18。

高さで有利な埼玉栄高校が出だしからペースを掴む。12のゴール下のバスケットカウント1スローで始まる。その後も

2のハイポストからのジャンプシュートが決まり流れに乗ることができた。対する市立川越高校はインサイドの

ディフェンスを厚くするが、ファールが多くなってしまふ。しかし相手の落ちたシュートは確実にマイボールにし、10の

ジャンプシュートで応戦する。残り5分のところで市立川越高校がTOを請求し、埼玉栄の流れを止めた。TO後は

ディフェンスリバウンドを確実にとりオフェンスに繋げたいがパスミスから逆に埼玉栄高校に走られてしまい、失点する。

たたみかける埼玉栄高校は0の速攻からのバスケットカウント1スローのプレイで得点を重ねていく。第2Qも2を

中心に得点し、ディフェンスでも相手のミスを誘い埼玉栄高校のペースで前半が終了した。

後半になると市立川越高校は1-3-1ゾーンに変える。8の3Pも決まり流れを引き寄せたいが、埼玉栄高校の高さ

がここでも有利になってしまう。攻めあぐむ場面もあったが、オフェンスリバウンドを取る機会が多くセカンドシュートを

正確に決めていった。市立川越高校はインサイドにボールが入ると早めに寄ってミスを誘う場面が多くみられた。

また、4と5が体格差はあるものの埼玉栄高校の2と12の高さを封じ込めるために体を張ったプレイがとても印象的

だった。ファールはかさんでしまう場面もあるが、一生懸命相手の長所を抑えようと努力していた。最後まで自分たち

のペースを崩さず攻め続けた埼玉栄高校が決勝進出を決めた。

(記録者: 滑川総合高校 細川)